

勿凝学問 94

NHKがあるんだから国営政党もあっていいじゃないかな（笑）

2007年参院選公示日の健康マネジメント研究科最終講義

2007年7月12日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

7月12日木曜日、健康マネジメント研究科という大学院講義の最終日（[勿凝学問 34](#)参照）。日頃はSFCにいる彼らは、木曜日には信濃町に出張してきて講義を受ける。ちょっと遅刻気味に、代々木の駅で乗り換えようとすると、ちょっと遅刻気味の学生さんがいた。一緒に電車に乗って信濃町まで駅二つ。

車中での会話。

「お仕事はNHKとかなんとかだったよね」

（講義の掲示板があり、そこで履修者には自己紹介をしてもらっていたので、分かる）

「はい」

「テレビをみてて思うんだけど、民放はひどいね。タレントが集まってしゃべったり笑ったりしてるだけなんだもんな。バラエティーやクイズだけじゃなく、ニュース番組にしても、タレントさんや、専門家だと自覚しているらしい客観的タレントさんがなんか間違えたことをしゃべっては、笑ったり顔しかめたりしているだけ・・・。

視聴率命だから仕方がないんだろうけど——でもあれだね。

民放の視聴率を左右して、民放のレベルを劣悪にしている一般視聴者と同じ人たちが、そのまま選挙では有権者になるんだよね。政党も劣悪になるわけだよ¹。いっそ、視聴率に

¹ 以前、次のような文章を書いたこともあるので、ご参考までに。

「勿凝学問 11 2004年、年金国会終盤の読みかた（脱稿 2004年5月31日）」より

このように、人間の行動を説明し予測をする際に、利己的個人の仮定はなかなか使えることを知るわたくしは、人間が政治家になれば、突然にしてなによりも国民のことを慮かる利他的な個人になってしまうなどとはまったく考えてもいないし、正直なところ、考えたこともない。政治家にも生活があるだろうし、家族を養っていかなくてはならないであろう。彼・彼女が政治家であるために生計を立てることができる人もいるであろうし、もちろん後援者も構えている。そしてさらに野党にあるときの政治活動というものは、想像するにあまり面白くなさそうでもある。だから彼らにとっては、選挙で当選することが絶対的な目標となるであろうし、政党にとっても、次の選挙で党勢を極大化させることを絶対的な目標として掲げるであ

あまりとらわれないで番組をつくることのできる国営放送NHKのように、支持率にとらわれないでも政策を展開できる国営政党でも作ればいいのにね（笑）。

まあ、かつては、選挙の洗礼を受ける必要のない官僚がそれらしき役回りを演じることが期待されていたんだろうけど、最近では、この国の官僚機構、ようするに国営政党の部分を破壊して、民営政党ばかりが権力を持つようとしているんだよね。なにをやっているのやら。

それと、あのタレントたちの出演料は相当に高いんだろうね」

「はい、いろんなテレビ局で、そういう番組がものすごく多く組み込まれていますから、出演者料は鰻登りにあがる一方です」

「なんかなあ。子どもの頃や若いときの努力と大人になってからの社会的、経済的な報われ方が関係なくなりすぎだよね。教育改革なんて大層なことを口にしながら、頑張れば報われるという、そうしたインセンティブスキームをしっかりと社会的に築いていかないとダメなんだけど、なんだか難しいよね」

・・・と、たった駅二つの電車の中で、いったい何を話しているのか！？

そして講義では——今年、スティグリッツの『公共経済学』をベースとしながら、変わらず講義とも講演ともつかぬ雑談をしているのだけど、今日はたまたま「年金」の章だったので——野党の年金改革案を徹底的にからかって遊んだというか、その詐欺度合い、いかに毛針で魚を釣ろうとしているペテン師なのかを話し、野党の年金改革案と世間で呼ばれているものなんて、あれは年金改革案と呼べる代物ではないんだよねということを説明する。たとえば、年金受給年齢になると、いきなりホームレスまでも誰もが7万円ほどの年金をもらうことができるようになる租税方式の年金というものの魅力を延々と——しかも財源を5%の消費税で支払う高所得者そしておそらく中所得者は、生涯5%の消費税を払い続けるのに、これまた生涯、租税方式の基礎年金をもらうことができないらしく、低所得者の年金のために5%の消費税を負担をしてあげなければならないらしい。こうした制度を口にしながら、年金の拠出記録をしっかりと管理してくれると彼らは言ってくれてもいる。どうも最近の話では、いまずぐにでも租税方式に変えるような話になってきているから、民主党は、基礎年金に関してこれまでの拠出履歴を無視するつもりでいるよ

ろうと想定してしまう。

そしてもし、国民の利益を極大化させる戦略をとるべきか、それとも次の選挙で得票率を極大化させる戦略をとるべきかの選択に直面したとき、前者の戦略を捨てて後者の戦略を選択するであろうとも予測する。こうした、国民の利益を極大化させる戦略と、選挙で勝つ戦略が相反する状況は、国民が正しく情報を得ていないときに起こり得るとも考えているし、国民が正しく情報付けられていない状況は、むしろ常態であるとも考えている。

うなんだよね。今までの未納者にとって、なんと幻惑的魅力的ロマンチックな改革案を提案してくれるのか、民主党さんは！ 仮に、これまでの拠出履歴を給付にしっかりと反映させるとなると、彼らのいう租税方式との整合性はどうか保たれるのかな？移行措置はどのような計画を立てているんだろう？などなど。財源の手当がなされていないというような、そんなレベルに到達していないんだよね、彼らや世間が言う野党の年金改革案は（笑）。まあ、国民さんたちも、政争がたまらなく面白くなって好きで好きで仕方がないならば、野党というのに年金改革をやらせればいいさ。思いもかけず政権を任せられてしまった現野党さんたちが、まさか与党になるとは思わなかったと後悔するなか、約束してしまったことは仕方がないと公約通りの年金改革をやってしまったら、そこで生まれる最低保障年金は、いずれ生活保護の方向に縮小されていくだろうよ。まあ、その前に、年金選挙で勝利した野党が近い将来政権でもとった暁には、自分たちのいう年金改革を実現しようとしたら即座に次の選挙で大敗ということになるのが落ちだけだね。それも一興ではあるかな。

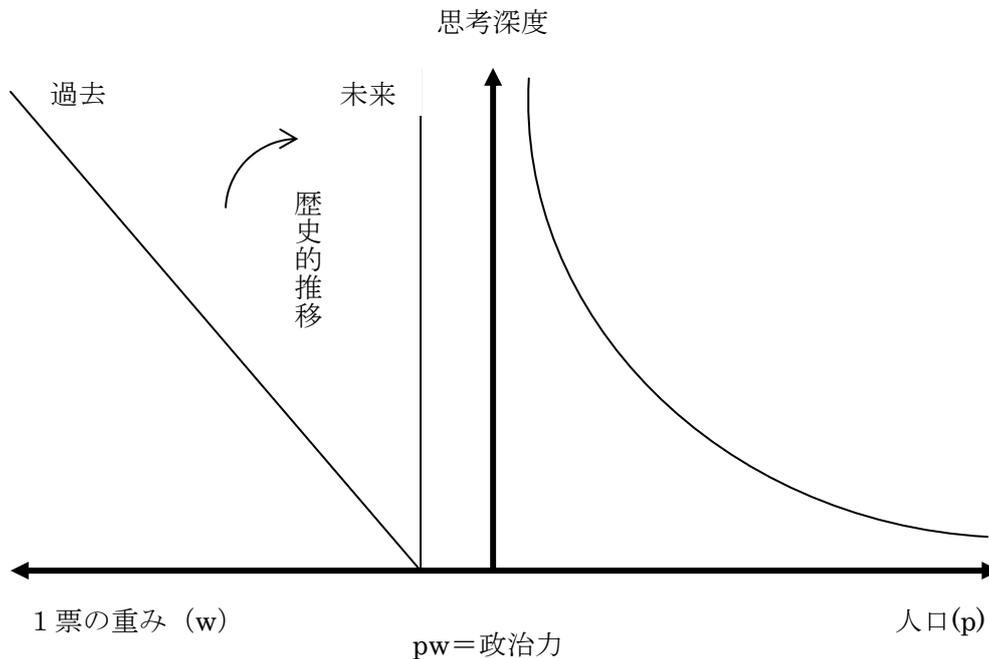
に、留まらず。

先週のスティグリッツ『公共経済学』は「医療」だったので、そこで話した「クリームスキミング」という概念を思い出してもらい、「民間医療保険は、大きく二つの方法で、利潤を増やすことができる。ひとつは、経営の効率化、いまひとつは、「クリームスキミング」と呼ばれる疾病リスクの低いひとの選択。医療保険会社にとって、いずれの方がコストパフォーマンスが良いかという間違いなく後者のクリームスキミング——ここが問題なんだよね」と、まず話す。

それに続けて、「それと同じように、政党も、ふたつの方法で支持率を上げることができるとしよう。ひとつはシンクタンク機能を強化してしっかりとした政策を提示する方法。いまひとつは、ライバル政党のスキャンダルをあげつらうネガティブ・アド。いずれの方がコストパフォーマンスが高いかという間違いなく後者のスキャンダルをあげつらうネガティブ・アド——ここが問題なんだよね」と・・・。

そして最後に、次の図を説明して、今の政治、まあ、いかんともしがたいものがあるってところだね、と話しを結んで、2007年度健康マネジメント研究科の講義を終了。

図 1 思考深度と人口反比例の法則と 1 票の重みの歴史的推移



思考深度の高さと人口は反比例する。そして、過去においては、いろいろな仕組みや時代的思想のもと、思考深度の高い人の 1 票の重みは高く——すなわち彼らの考えが人々から敬われる度合いは高く——維持されていた。ところが、(かつて活版印刷の発明 1450 年頃から半世紀少しすぎた 1517 年にルター宗教改革などが起こったように)ここ 100 年の情報伝達技術の発達の影響が大きいと思うけど、1 票の重みが、思考深度と正相関する関係がくずれ、思考深度と関わりなく 1 票の重みが万人平等化する方向に動いてきた。よって、人口と 1 票の重みの積 pw で表される政治力は、しだいに思考深度の低い人たちに移行していく変化を、世界の歴史は示してきた。学者の矜持は、思考深度の高いところにみずからを留まらせようとする働きをしてきたのであるが、その学者の矜持さえも競争原理のあおりを受けて次第に失せていき、もてはやしてくれる人たちの数が勝負の世界に墮落してきた。

オルテガの『大衆の反逆』が出たのが 1930 年、ヒトラーがクーデターの失敗後に方針を転換しておよそ 10 年後、完全に民主主義体制にしたがいながらその体制の下で大統領と首相を統合した総統になるのは 1934 年。それから 70 年。日本は 2007 年参院選の公示日を今日迎えたわけだけど、選挙戦の様相をみていると——なんだか、頭が痛いね (笑)。

って、健康マネジメント研究科の講義で、何をはなしているのやら・・・。